

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 7 日現在

機関番号：10102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K02809

研究課題名(和文) 教員養成大学における学生の地域理解と地域間移行：適応と時間的展望との関連から

研究課題名(英文) Regional understanding and interregional transitions among students in teacher training colleges: perspectives on adaptation and time perspective.

研究代表者

半澤 礼之(Hanzawa, Reino)

北海道教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：10569396

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題は、教員養成大学の学生を対象にして彼らの「教育における地域の重要性」の認識および学校から社会への移行期における地域間移動の様相を明らかにすることを目的とした。「教育における地域の重要性」については、半澤・宮前・浅井(2021)でその認識を測定する尺度を開発し、半澤(2023)においてその認識が学生の過去の地域との関わり経験と関連を持つことを明らかにした。移行期における地域間移動については、半澤(2020, 2022)で地域間移動を行った初任教員を対象として検討を行い、移行期先への適応に関して地域の要因が一定程度あることや、地域間移動を展望した大学生活を行うことの必要性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、学校教育における「地域」の重要性が様々に指摘されている。また、それを受けて教師教育や学校教育の研究領域においても「地域」に着目することの重要性が増しているといえる。その一方で、この領域において「地域」に着目した研究は多くない。このような状況の中、教員養成大学の学生の教育における地域の重要性の認識について測定する尺度を開発したり、教師になる際に地域間移行を行う学生・初任教員の適応に影響を与える要因について検討を行ったりした本研究課題は、学術的意義・社会的意義の双方があると言える。

研究成果の概要(英文)： The purpose of this research was to clarify the students' perception of "the importance of the region in education" and the aspects of interregional mobility during the transition from school to work.

Hanzawa, Miyamae, and Asai (2021) developed a scale to measure the perception of "the importance of community in education". Hanzawa (2023) found that this perception was related to the students' past experiences of community involvement.

Hanzawa (2020, 2022) examined the effects of transregional mobility on first-year faculty members who moved between regions during the transition period, and suggested that there are regional factors in adjustment to the transition destination and the necessity of conducting university life with a view to transregional mobility.

研究分野：教育心理学, 教育工学

キーワード：教員養成 地域 適応 時間的展望

1. 研究開始当初の背景

教師教育において「地域」の重要性が様々に指摘されている。近年の政策に目を向ければ、中央教育審議会(2015)の答申である「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」(平成 27 年 12 月 21 日)は、これからの学校教育における地域との連携の重要性を強調した。社会的な背景を受けて、教員養成の学びにおける「地域」という視点の重要性は大きくなっているといえる。このような現在において、教員養成大学に入学して学び、将来教師になること、また、教師として仕事を続けることにおいて「地域」という視点を外すことは困難になっているといえる。こういった「地域」の強調にも関わらず、それを教師への移行期にある教員志望の学生がどのように受け取っているのかという研究は少ない。従って、教員養成大学の学生を対象として「地域」という観点から彼らの学びや移行を捉える研究が必要となると言える。

2. 研究の目的

本研究の目的は次の 2 つである。

(1) 教員養成大学に所属する大学生を対象として、学校教育における地域との協働の重要性の認識を検討すること。具体的には、その認識を測定する尺度を開発し、それと関連をもつ要因を明らかにすること。

(2) 教員養成大学の学生を対象として「大学生として学んでいる場」と「その学びを教師として実践する場」の異同、つまり学校から社会への移行にともなう「地域間移行」を展望したり実際に経験することが、彼らの適応や時間的展望にどのような影響を与えるのかを検討すること。

以上の 2 つの目的で研究を行い、教員養成における「地域」という視点の重要性について実証的に検討することが本研究課題が目指したものである。

3. 研究の方法

(1) 学校教育における地域との協働の重要性の認識

教員養成大学に所属する大学生を対象として、質問紙調査を実施した。教育における地域との協働の重要性の認識を測定する尺度の開発にあたっては、はじめに大学生を対象として自由記述による質問紙調査を実施し、その重要性の認識に関わる記述を収集した。その記述を整理した上で質問項目として調査を行い、因子分析によって因子構造を検討した。また、尺度の妥当性の検討にあたっては、地域愛着(川村・谷口, 2013 ; 羽島ほか, 2016)や地域社会への責任感(谷田, 2015)、地域を題材としたカリキュラム開発への効力感(深見, 2016)との関連について分析を行った。

また、この認識と関連を持つ要因として過去に地域と関わった経験を想定して、両者の相関係数を算出した。

(2) 移行期における地域間移動と適応、時間的展望

教員養成大学に所属する学生を対象にして、2 つの縦断的な面接調査を行った。1 つ目は、地域間移動の展望を促すと考えられる「へき地・小規模校体験実習」に参加した学生を対象にして、1 回目(2 年生時)の実習参加と 2 回目(3 年生時)の実習参加で地域間移動の展望やそれに基づく学びがどのように変容したのかを検討した。2 つ目は学校から社会(学生から教師)への移行に伴い都市部から町村部に地域間移動した初任教員を対象にして、1 回目(大学 4 年生の 3 月)と 2 回目(初任教員になった年の 8 月)で地域に対する考え方や移行先での適応、時間的展望がどのように変容したのかを検討した。

4. 研究成果

(1) 学校教育における地域の重要性の認識

教員養成大学に所属する大学生 396 名に対して質問紙調査を行った結果、「地域と学校教育の協働の重要性の認識」尺度が開発された(表 1)。本尺度は「地域の教育への活用」「地域の未来のための教育」「地域と学校の関わりと子どもの発達」「地域と学校の関わり的重要性」の 4 つの因子からなる。信頼性・妥当性についても十分であることが明らかになった。本調査結果は日本教育工学会論文誌に掲載された(半澤・宮前・浅井, 2021)

また、この「地域と学校教育の協働の重要性の認識」と関連を持つ要因を明らかにするため、この尺度と過去に学校教育内外で地域と関わった経験の関連について検討した。その結果、「地域と学校教育の協働の重要性の認識」と過去の関わり経験には関連があることが示された(表 2)。この結果は、ESD・環境教育研究(半澤, 2023)に掲載されている。

表 1. 地域と学校の協働の重要性の認識尺度に対する探索的因子分析結果(最尤法, プロマックス回転)(半澤・宮前・浅井, 2021)

	I	II	III	IV
I. 地域の教育への活用 ($\alpha = .91$)				
地域に出ていくような授業を行いたい	.87	-.10	-.11	-.05
学校の中だけではできない教育を地域で行いたい	.83	-.23	.03	.06
地域の特色を活かした教育を行いたい	.75	.03	-.03	.01
その地域の魅力に気づけるような教育が必要である	.73	.06	-.04	-.04
教師として積極的に地域に関わっていききたい	.71	.10	-.03	.07
地域を教育のフィールドにしたい	.64	.10	.07	-.07
児童・生徒には地域のことを学んで欲しい	.58	.12	.14	-.08
地域と関わることは教師のキャリアにとって重要である	.48	.17	.11	-.01
地域と共に児童・生徒を育てたい	.42	.26	.21	.02
II. 地域の未来のための教育 ($\alpha = .78$)				
地域の未来のために学校は活動しなければいけない	-.09	.84	-.01	-.02
学校は地域のためにある	.02	.68	-.08	-.06
教師は地域との関わりによって育てられる	-.03	.64	.07	.17
地域の未来を担う児童・生徒を育てたい	.13	.58	-.05	.06
III. 地域と学校の関わりと子どもの発達 ($\alpha = .72$)				
児童・生徒の発達にとって、地域との関わりは重要である	-.07	.03	.81	.00
地域と学校は連携する必要がある	.09	-.12	.73	-.02
学校の役割のひとつとして、地域活性があると思う	.04	.05	.61	-.09
教師にとって地域とのかわり合いは必要ないものである*	.01	-.17	.44	.28
IV. 地域と学校の関わり的重要性 ($\alpha = .63$)				
教育は学校の中だけで完結してればいい*	.05	.02	-.08	.80
地域とのかわり合いがなくても、児童・生徒は成長する*	-.15	.12	-.04	.54
学校と地域の連携が教育にとって不要である*	.10	-.04	.12	.47
因子間相関	I	II	III	IV
I		.57	.73	.41
II			.48	.12
III				.41

表 2. 過去に地域と関わった経験と地域と学校の協働に対する重要性の認識の関連

	教育課程内における 学校内での学習経験		教育課程内における 地域での学習経験		教育課程外での学習 経験	
地域の教育への活用	.56	***	.51	***	.39	***
地域の未来のための教育	.40	***	.33	**	.29	**
地域と学校の関わりと子どもの発達	.48	***	.45	***	.26	**
地域と学校の関わり的重要性	.27	**	.28	**	.19	†

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

(2) 移行期における地域間移動と適応, 時間的展望

1. 「へき地・小規模校体験実習」に参加した学生の地域間移動の展望と学びの変容

大学2年生と大学3年生の二回にわたって「へき地・小規模校体験実習」に参加した教員養成大学の学生1名を対象にして縦断的な面接調査を行った。その結果, 「へき地・小規模校実習」を経験することで地域間移動の展望が生じたこと(1回目面接時), また, 実習を重ねることでその展望がより具体化し, 現在の教師としての力量では将来へき地で働くことが困難かもしれないという役割の移行の展望が生じていること(2回目面接時)が示唆される結果が得られた。1回目から2回目にかけて地域間移動を伴う教師としての将来展望の形成が進んだと考えることができるだろう。また, 「地域」の強調される教育実習を重ねることによって, 地域で教えることを目指した学びをより広い視点から捉えられるようになったと考えられる発話も得られた。

以上の結果から, 「地域」を強調した学びを大学の中で経験することが, 地域間移動や役割の移行(学生から教師)の展望の形成や具体化, そしてその展望にもとづいた学びの変容を促す可能性が示唆されたと考えられる。本研究の結果は, 北海道キャリア教育研究会紀要(半澤, 2021)に掲載されている。

2. 学校から社会(学生から教師)への移行に伴う地域間移動と適応, 時間的展望

学校から社会(学生から教師)への移行に伴い都市部から町村部に地域間移動した初任教員1名を対象にして, 1回目(大学4年生の3月)と2回目(初任教員になった年の8月)で地域に対する考え方や移行先での適応, 時間的展望がどのように変容したのかを検討した。その結果, 地域間移動の結果として移動先の適応に困難を抱えてしまい, 将来展望がうまく描けなくなるケースがあることが明らかになった。既に指摘したように, 現代においては教員養成や学校教育において「地域」が強調されているといえる。その結果として, 地域を移動して移動先の地域と関わりながら教育を行うことを志向する, もしくはそれを求められる教員は一定程度存在すると言えるだろう。

この地域との関わりについて, 従来の研究の多くは, どのように地域と協働して教育を行っていくのかといった, 教員としての役割やそれに必要な力を中心に議論や検討がなされてきたと考えられる。この議論や検討は重要である。それにくわえて, 本研究で得られた事例検討の結果から, 地域と協働して教育を行うこと的前提には地域に適応することやそれに基づく肯定的な時間的展望の形成が必要であることが示唆された。本研究の結果は, 釧路論集(半澤, 2022)に掲載されている。

引用文献

- 半澤礼之 (2021). 地域間移動を展望した教員志望の学生の学びと時間的展望—へき地・小規模校体験実習を受講した学生の事例から— 北海道キャリア教育研究 5, 34-40.
- 半澤礼之 (2022). 地域間移動を経験した初任教員の環境適応と時間的展望—大学4年生から教員1年目にかけての縦断的な事例検討より— 釧路論集, 54, 37-45.
- 半澤礼之 (2023). 教員志望の学生の「地域と学校教育の協働の重要性の認識」と関連を持つ要因 ESD・環境教育研究, 25, 15-19.
- 半澤礼之・宮前耕史・浅井継悟 (2021). 教員志望の学生における地域と学校教育の協働の重要性の認識尺度の開発 日本教育工学会論文誌, 44(Suppl.), 93-96.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 半澤礼之	4. 巻 5
2. 論文標題 教員志望の大学生の地域間異動の展望と大学での学び - へき地・小規模校体験実習を経験した学生の語りから -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 北海道キャリア教育研究	6. 最初と最後の頁 34-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 半澤 礼之, 宮前 耕史, 浅井 継悟	4. 巻 44(Suppl.)
2. 論文標題 教員志望の学生における地域と学校教育の協働の重要性の認識尺度の開発	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本教育工学会論文誌	6. 最初と最後の頁 93-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15077/jjet.S44049	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 半澤礼之	4. 巻 54
2. 論文標題 地域間移動を経験した初任教員の環境適応と時間的展望 - 大学4年生から教員1年目にかけての縦断的な事例検討より -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 釧路論集	6. 最初と最後の頁 37-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32150/00010893	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 半澤礼之	4. 巻 25
2. 論文標題 教員志望の学生の「地域と学校教育の協働の重要性の認識」と関連を持つ要因	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ESD・環境教育研究	6. 最初と最後の頁 15-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 半澤礼之
2. 発表標題 地域間移行を経験した初任教員の環境適応と時間的展望 - 大学4年生から教員1年目にかけての縦断的な事例検討より -
3. 学会等名 日本教師教育学会第31回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 半澤礼之
2. 発表標題 域間移動を展望した教員志望の学生の学びと時間的展望 - へき地・小規模校体験実習を受講した学生の事例から -
3. 学会等名 日本教師教育学会第30回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 半澤礼之・宮前耕史
2. 発表標題 教員養成大学の学生における「地域と教育の関係の捉え方」尺度の開発
3. 学会等名 日本教師教育学会第29回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 東海林麗香・半澤礼之・岡田有司・小田雄仁・松嶋秀明・保坂亨
2. 発表標題 ローカリティから考える教師の発達：地域間移動と学校間異動に 焦点を当てて
3. 学会等名 日本教育心理学会第61回総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 半澤礼之
2. 発表標題 社会への移行期における場の移動と大学生の時間的展望：教員養成大学に所属する学生を対象とした面接調査より
3. 学会等名 日本発達心理学会第30回大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	宮前 耕史 (Miyamae Yasufumi) (30584156)	北海道教育大学・教育学部・准教授 (10102)	
研究分担者	浅井 継悟 (Asai Keigo) (40776655)	北海道教育大学・教育学部・准教授 (10102)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------